【授業科目】臨床化学検査学Ⅱ　Laboratory Clinical Chemistry Ⅱ

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	２年次 前　期	必 修	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	講義概要／生物化学検査は診断や治療を目的として病院の臨床検査として高頻度に利用され、さらに予防医学に対しても重要な検査項目が多い。まず、臨床化学Ⅰの知識を基に血清成分の変化が病態に関与する関係を他の検査項目との関連性を含めて理解する。生理的意義、臨床的意義、測定法の理論を中心にさらに理解を深め、検査値の読み取り（R-CPC）も取り入れ、疾患とのかかわりを重点的に学ぶ。また生活習慣病（糖尿病）の診断に役立つ機能検査など、新規ホルモンと疾患との関連も教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する
実務経験に 関する授業内容	臨床検査士技師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な臨床化学検査の知識について、現場業務項目に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①各検査項目の測定法、原理を説明できる。 ②検体の保存方法、各検査項目の影響物質について説明できる。 ③ホルモン、機能検査の内容を理解し、説明できる。 ④検査項目から疾患を読み取ることを理解する。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	臨床化学検査学Ⅰでの内容をよく理解し、発展させる。特に疾患を読み取る力を養ってほしい。他の専門科目で学習する検査値との関連も説明できるよう努力してほしい。 第１回～8回事前学修：指定の教科書を事前に読んでおく（各120分） 第１回～8回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各120分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各６０分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　生体色素１、ヘムの合成、ポルフィリン体、胆汁色素の代謝など 生体色素２、ビリルビンの構造と性質、検査法と臨床的意義。症例検討 第 2 回　薬物・毒物、薬物検査の目的、生体内の薬物動態。測定法。ＴＤＭ（薬物モニタリング）、ドーピング検査など 微量金属、検査の目的、有害金属など 第 3 回　ホルモン１、ホルモンの種類と性質、作用機構 ホルモン２、ビタミン、各種ホルモンの臨床的意義、症例検討。ビタミンの種類と作用、性質。 第 4 回　機能検査１、機能検査の目的、肝（胆道）機能検査、腎機能検査、糸球体機能検査など 機能検査２、膵機能検査、内分泌・外分泌機能検査など 第 5 回　疾患シミュレーション１、脳血管疾患について 疾患シミュレーション２、内分泌疾患について 第 6 回　疾患シミュレーション３、循環器疾患について 疾患シミュレーション４、筋疾患について 第 7 回　疾患シミュレーション５、肝（胆道）疾患について 疾患シミュレーション６、腎疾患について 第 8 回　最新検査法について・まとめ 全て 高崎
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 適宜行う小テスト 20%、 学期末試験 80%
教科書	『新版　臨床化学検査学　第４版』講談社 ※1年後学期「臨床化学検査学Ⅰ」で使用したもの　　参考書等：なし
学生への メッセージ	各講義に使うプリントをよく勉強し、検査データの意味を正確に把握することを目的とし、勉強して欲しい。